

2008年度 第2四半期 決算説明会

(2008年4月～9月)

富士フイルム ホールディングス株式会社
2008年10月30日

注意 本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2008年度第2四半期連結業績（累計）

世界的な景気減速や為替円高の影響等により、減収減益

(単位:億円)

	2007年度 上期		2008年度 上期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	14,080	100.0%	13,384	-696	-4.9
営業利益*	7.7%	1,086	6.1%	812	-274	-25.2
税金等調整前 四半期純利益	8.2%	1,147	6.1%	817	-330	-28.8
四半期純利益	4.6%	646	3.4%	453	-193	-29.8
1株当たり 四半期純利益		126.48円		89.97円		-36.51円
為替:米ドル		119円		106円		-13円
ユーロ		162円		163円		+1円

■ <参考> 営業利益増減要因(対07年度上期): (単位:億円)

為替影響 ▲109 原材料価格上昇 ▲115 減価償却方法変更 ▲30 販売増減他 ▲20

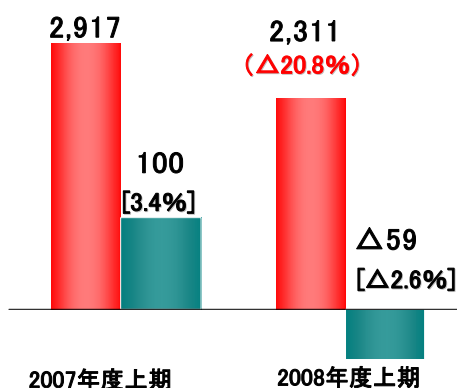
*構造改革費用(含S&S費用)07年度上期 43億円、08年度上期 41億円を含む

■ イメージング ソリューション

売上高*・営業利益

■ 売上高
■ 営業利益

単位: 億円
[]: 営業利益率
(): 前年比



売上高

2,311億円 (前年比 20.8%減)

- カラーフィルムの市場縮小に加え、単価下落によりデジタルカメラの売上も減少。
- 為替円高影響 (△135億円)

営業利益

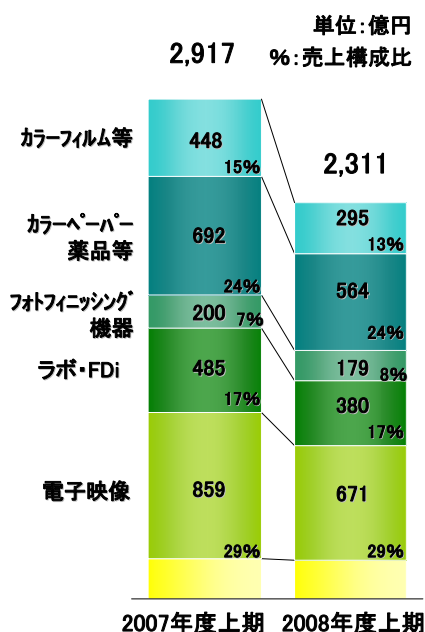
△59億円 (前年比 赤字化)

- デジタルカメラの単価下落影響等により、減益。
- 銀価格の高止まり、為替円高影響も収益を圧迫。

*セグメント間取引消去後

事業別セグメント情報

サブセグメント売上高



カラーフィルム等

295億円 (前年比: 34%減)

- 市場縮小による売上減少が継続。

カラーペーパー・薬品等

564億円 (前年比: 19%減)

- 他社との競争が激化する中、フォトブックなど付加価値プリントの拡販等により当社シェアアップを図る。

フォトフィニッシング機器

179億円 (前年比: 10%減)

- 北米で展開するインクジェットドライミラボの販売が着実に増加。

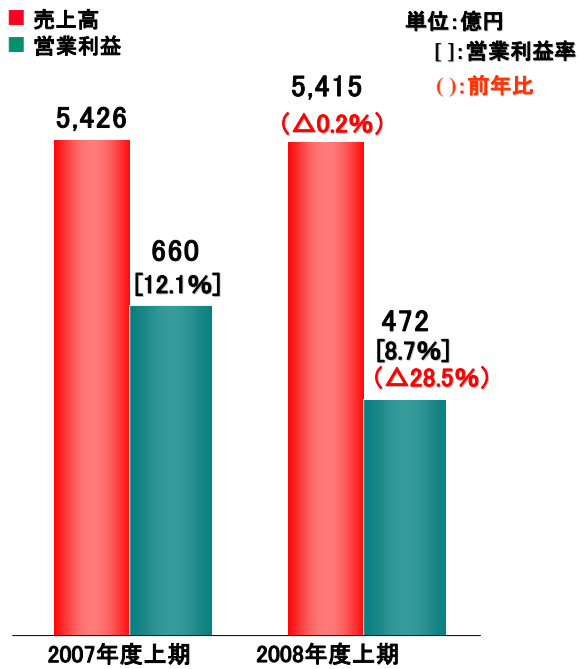
電子映像

671億円 (前年比: 22%減)

- 上期のデジタルカメラ販売台数は、ワールドワイドで430万台。国内では、FinePix「F100fd」など高画質機中心に販売数量は堅調に推移。北米では、需要減速傾向の中、低価格帯スタイリッシュ機を中心に販売数量は伸長。
- 単価下落の影響を受け、売上高は減少。

■ インフォメーション ソリューション

売上高*・営業利益



*セグメント間取引消去後

売上高

5,415億円(前年比 0.2%減)

- フラットパネルディスプレイ材料、カメラ付き携帯電話用レンズユニットの売上等は増加したものの、セグメント全体では横這いに止まる。
- 為替円高影響 (△205億円)

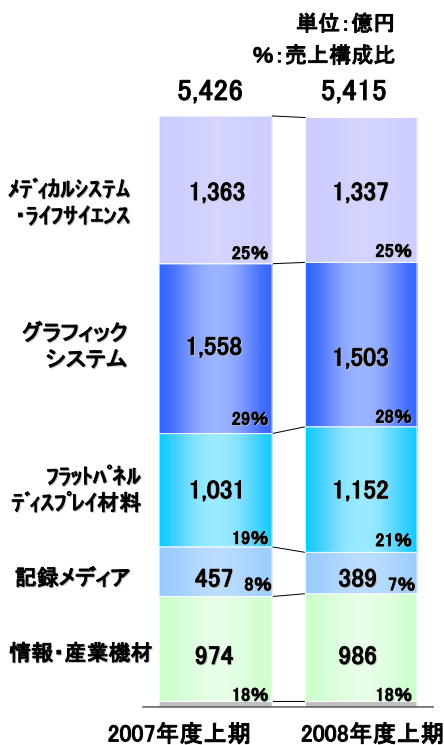
営業利益

472億円(前年比 28.5%減)

- 為替円高、原材料高騰等の影響を受け減益。

事業別セグメント情報

サブセグメント売上高



メディカルシステム・ライフサイエンス

1,337億円(前年比: 2%減)

- 国内の診療報酬改定の影響により、フィルムの需要が減少するが、FCR機器、医用画像情報ネットワークシステムの販売は拡大。
- 内視鏡は、欧米で発売したハイビジョン内視鏡システム等の販売が堅調。国内では競争が激化する中、電子内視鏡システム「Justia」シリーズを発売。

グラフィックシステム

1,503億円(前年比: 4%減)

- 米国・欧州では景気減速の影響を受けるが、堅調な国内需要や新興国での需要拡大により、CTPの販売数量は引き続き拡大。
- ワイドフォーマットインクジェット分野では、drupaでの受注好調等により売上が伸長。

フラットパネルディスプレイ材料

1,152億円(前年比: 12%増)

- 液晶パネルメーカーの一時的な生産調整の影響はあるが、「フジタック」、及び「WVフィルム」等の高付加価値フィルムの売上は継続して拡大。

記録メディア

389億円(前年比: 15%減)

- エンタープライズ系データメディアは順調に販売数量を伸ばすが、為替影響等により、売上は減少。

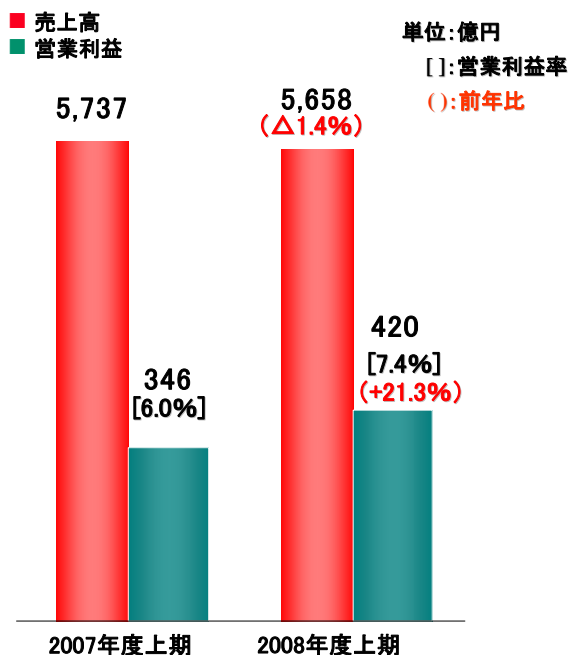
情報・産業機材

986億円(前年比: 1%増)

- 光学デバイス分野でカメラ付き携帯電話用レンズユニットの売上が増加。
- 主要顧客の需要が増大し、産業用インクジェットプリンター用ヘッド売上が伸長。

■ドキュメント ソリューション

売上高*・営業利益



*セグメント間取引消去後

売上高

5,658億円 (前年比 1.4%減)

- カラー機を中心に欧米向け輸出が好調に推移したものの、海外事業における為替変動に伴うマイナスインパクトの発生により減収
- 為替円高影響 ($\Delta 162$ 億円)

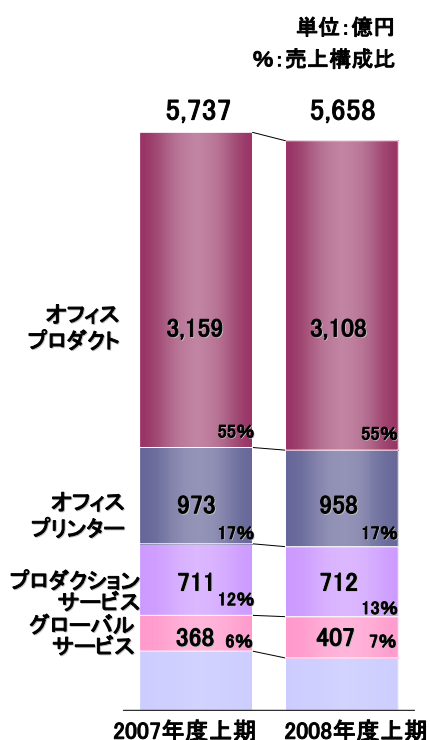
営業利益

420億円 (前年比 21.3%増)

- 原価低減、販売費及び一般管理費の削減により大幅増益

事業別セグメント情報

サブセグメント売上高



オフィスプロダクト

3,108億円 (前年比: 2%減)

- 国内ではLEDプリントヘッド搭載のフルカラーデジタル複合機に加え、3月に発売した低価格のカラーデジタル複合機の販売が好調に推移。モノクロ機を中心に市場全体の需要が減少し、国内販売台数はやや減少。
- 欧米向け輸出、アジア・中国地域とも、カラー機の出荷、販売台数が大幅に増加。

オフィスプリンター

958億円 (前年比: 2%減)

- 国内市場全体の需要低迷により「DocuPrint C3050」、「DocuPrint C2250」を中心とした自社ブランドカラー機の販売台数がやや減少。
- 欧米向け輸出、アジア・中国地域ともにカラー機の出荷、販売台数が大幅に増加。

プロダクションサービス

712億円 (前年比: 横這い)

- 国内ではカラー、モノクロ機ともにパブリッシングシステム販売台数が増加。
- 欧米向け輸出でカラー・パブリッシングシステムの出荷台数が大幅に増加。

グローバルサービス

407億円 (前年比: 11%増)

- ドキュメントアウトソーシングビジネスが国内外ともに引き続き伸長。

■ 2008年度第2四半期 連結業績

(単位:億円)

	2007年度 第2四半期		2008年度 第2四半期		増減	
					金額	%
売上高	100.0%	7,197	100.0%	6,847	-350	-4.9
営業利益*	6.8%	488	5.2%	353	-135	-27.6
税金等調整前 四半期純利益	6.2%	447	3.9%	267	-180	-40.2
四半期純利益	3.3%	236	2.0%	134	-102	-43.2
1株当たり 四半期純利益		46.33円		26.66円		-19.67円
為替:米ドル		118円		108円		-10円
ユーロ		162円		162円		-

■ <参考> 営業利益増減要因(対07年度2Q):

(単位:億円)

為替影響 ▲48 原材料価格上昇 ▲77 販売増減他 ▲10

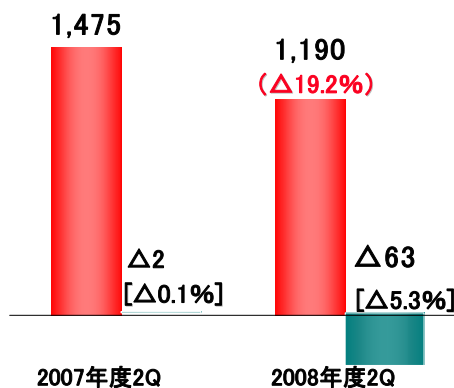
*構造改革(含S&S)費用 07年度2Q 33億円、08年度2Q 24億円 を含む

■ イメージング ソリューション 第2四半期

売上高*・営業利益

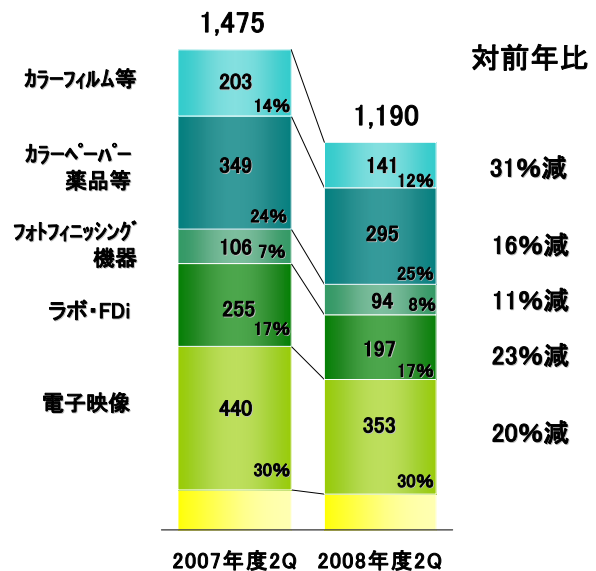
■ 売上高
■ 営業利益

単位:億円
[]:営業利益率
():前年比



サブセグメント売上高

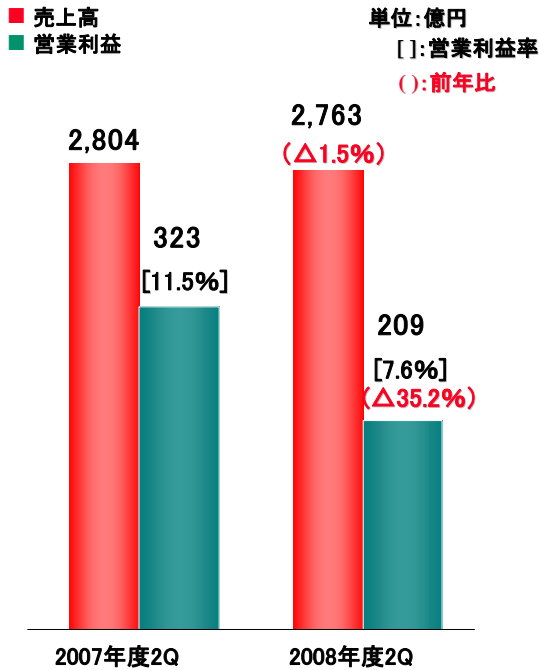
単位:億円
%:売上構成比



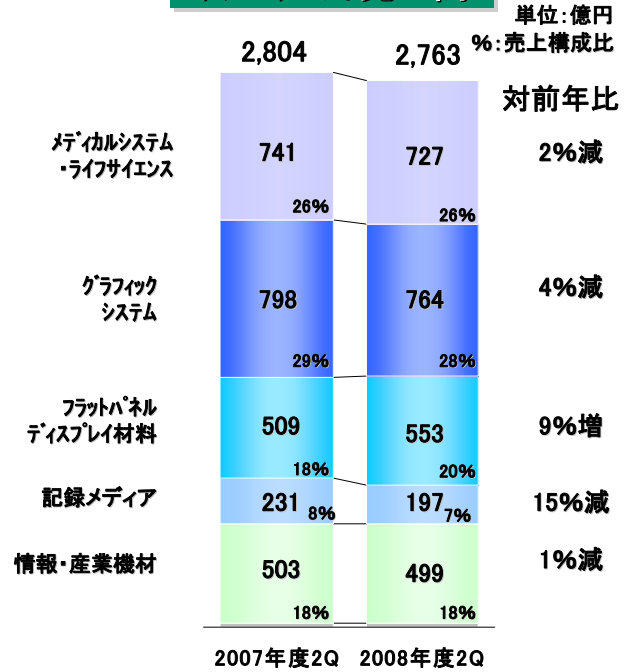
*セグメント間取引消去後

■ インフォメーション ソリューション 第2四半期

売上高*・営業利益



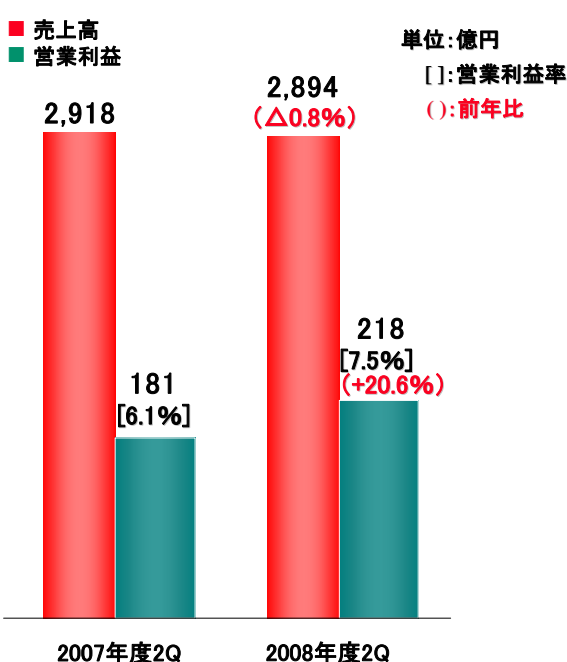
サブセグメント売上高



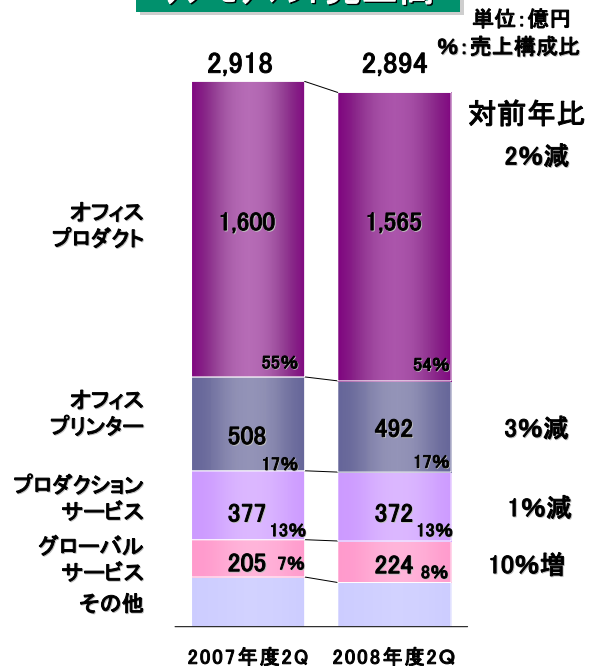
*セグメント間取引消去後

■ ドキュメント ソリューション 第2四半期

売上高*・営業利益



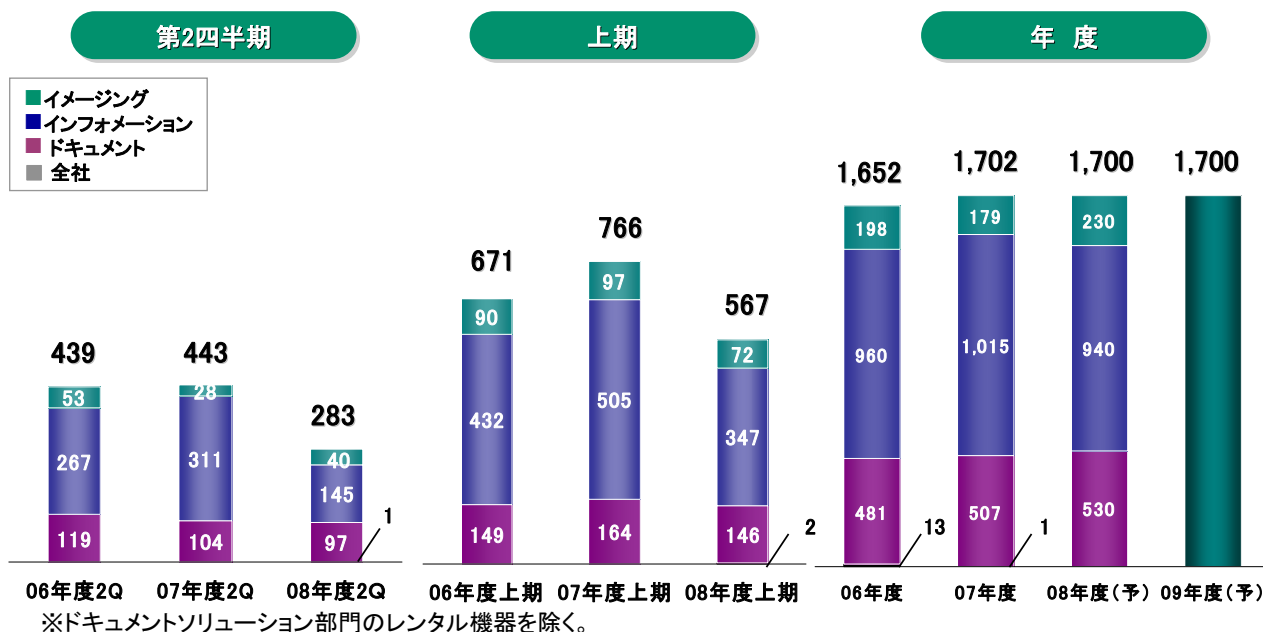
サブセグメント売上高



*セグメント間取引消去後

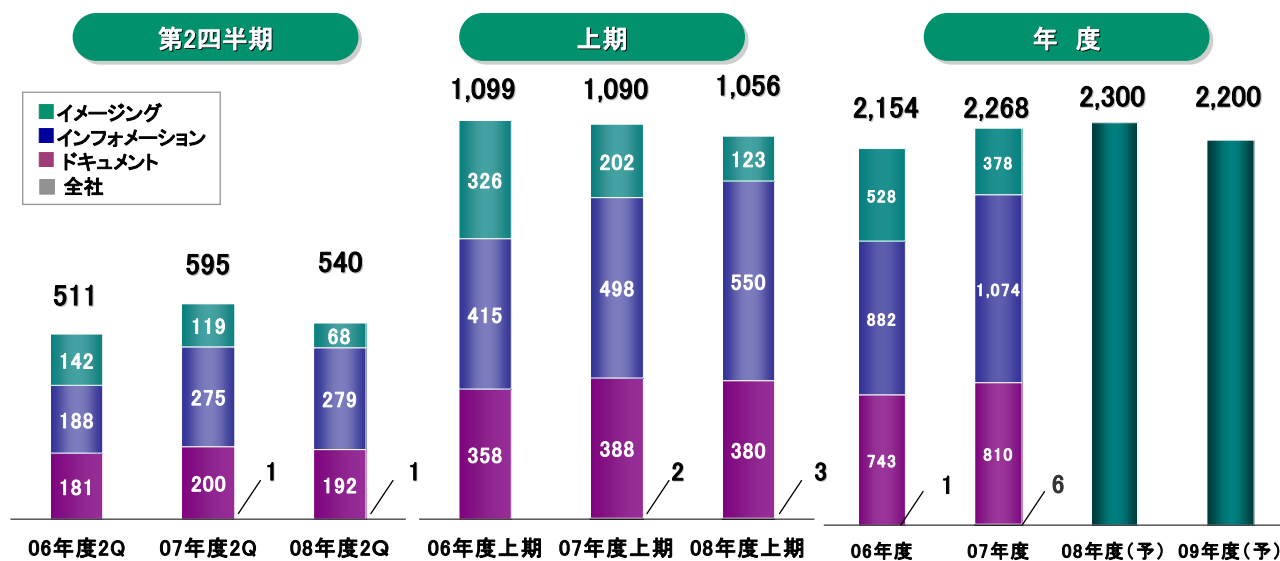
■ 有形固定資産の設備投資額※

(単位:億円)



■ 減価償却費

(単位:億円)



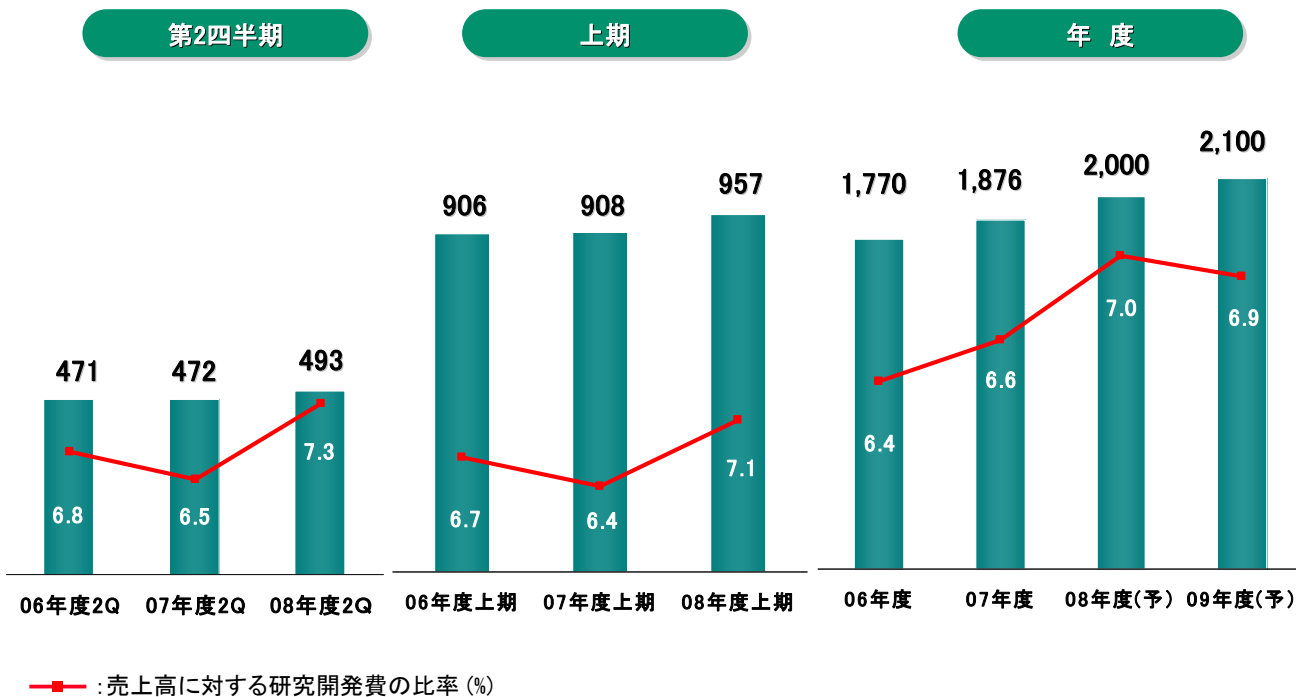
有形固定資産※の減価償却費

282	401	380	757	728	738	1,464	1,596	1,600	1,600
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-------	-------	-------

※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

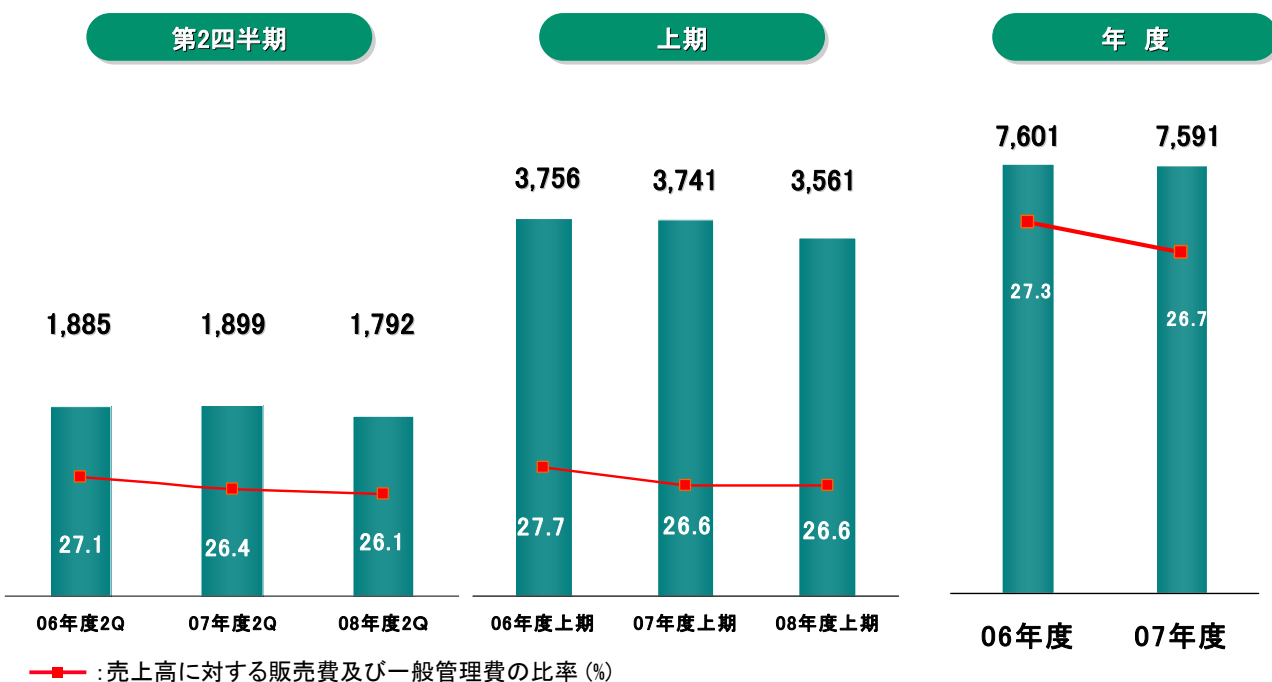
■ 研究開発費

(単位:億円)



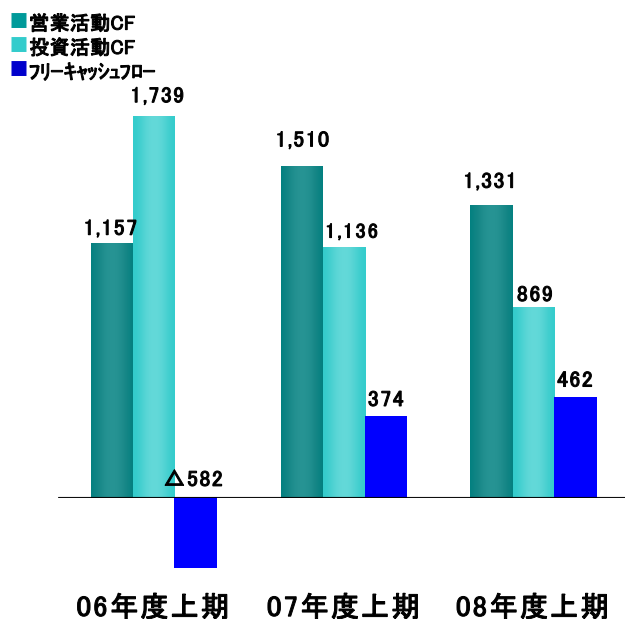
■ 販売費及び一般管理費

(単位:億円)



■ フリーキャッシュフロー

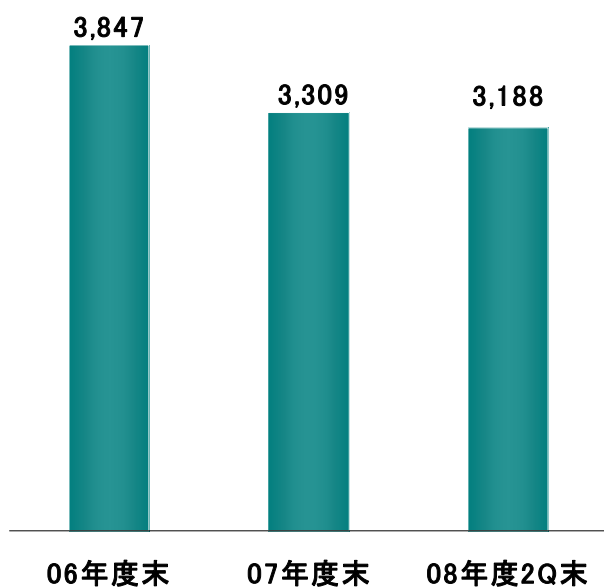
(単位:億円)



キャッシュフロー

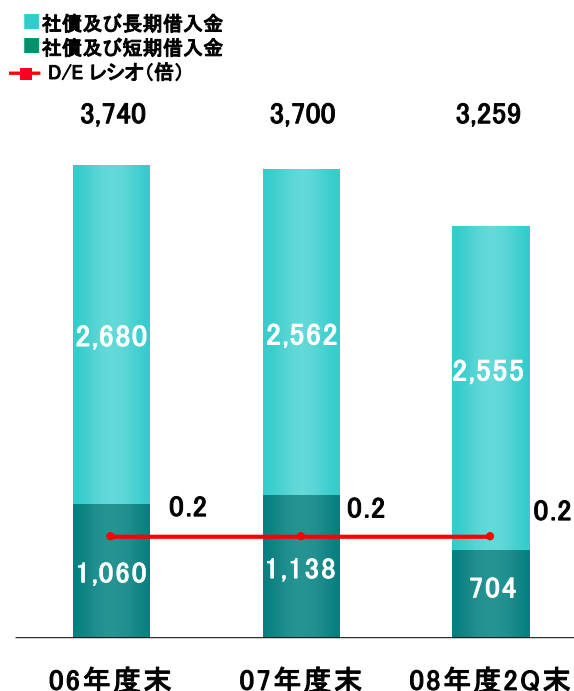
	07年度上期	08年度上期
四半期純利益	646	453
減価償却費	1,090	1,056
運転資本増減額	-201	-4
未払法人税等他負債の増減	-143	-387
その他	118	213
営業活動によるCF	1,510	1,331
設備投資	-785	-829
事業買収	-	-
その他	-351	-40
投資活動によるCF	-1,136	-869
フリーキャッシュフロー	374	462

■ 現金及び現金同等物



■ 有利子負債

(単位:億円)

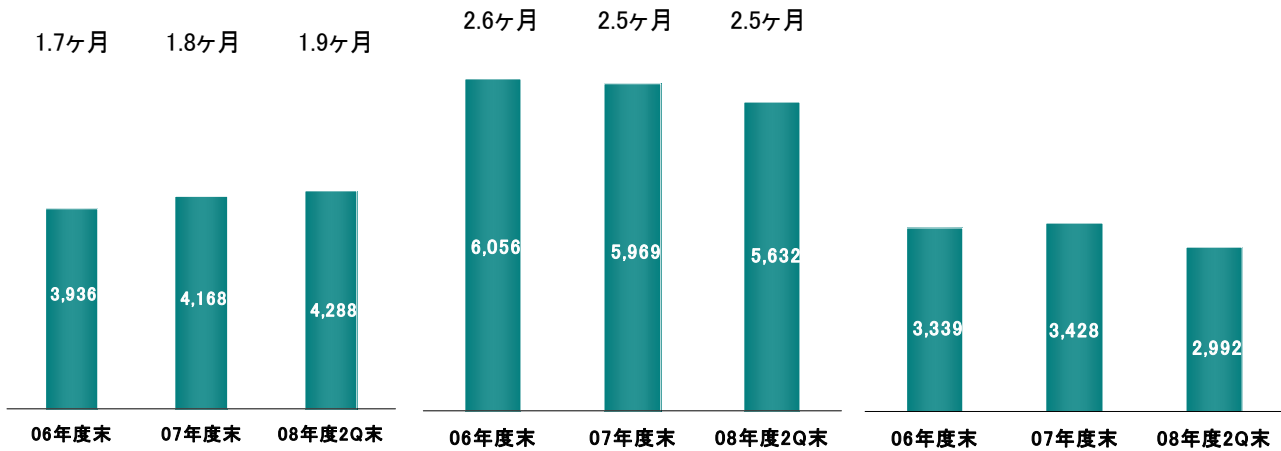


■ 棚卸資産

■ 受取債権

■ 支払債務

(単位:億円)
(保有月数)



■ 富山化学工業(株)新薬開発スケジュール

開発番号	薬効	地域	開発段階					剤形
			非臨床試験	P I	P II	P III	申請	
T-614	抗リウマチ剤	日本	[進捗バー]					経口
T-3262 10% 細粒(オゼックス細粒小児用10%)	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本	2008年10月製造販売承認申請 [進捗バー]					経口
T-3811	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	日本	[進捗バー]					注射*
		米国	[進捗バー]					経口/注射
		欧州	[進捗バー]					
T-3762	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本	[進捗バー]					注射**
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	米国	[進捗バー]					経口
T-5224 (R7277)	抗リウマチ剤	日本	[進捗バー]					経口
		海外	[進捗バー]					
T-705	抗ウイルス剤	日本	[進捗バー]					経口
		米国	[進捗バー]					
T-1106	抗ウイルス剤	日本	[進捗バー]					経口
T-2307	抗真菌剤	日本	[進捗バー]					注射

* 経口剤「ジェニナック錠」としては、2007年に承認済み

** 2002年に承認済みの「パシル点滴静注液」の用量追加

■ 為替、人員、株主構成

● 為替

(単位:円)

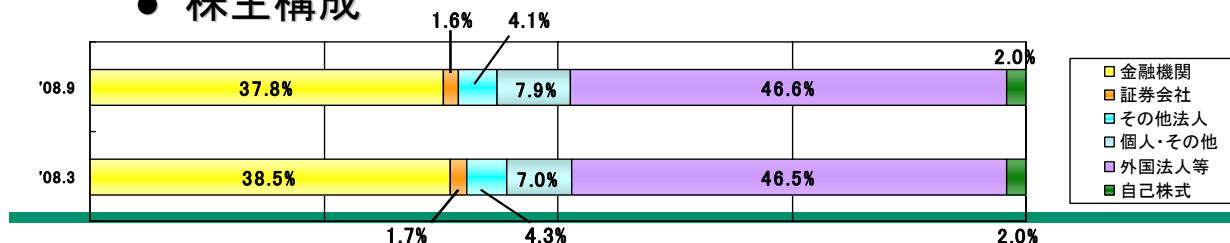
	2008年度			2007年度			
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	年度
米ドル	104	108	106	121	118	119	115
ユーロ	163	162	163	162	162	162	162

* 為替感応度(年間/対営業利益) US\$ 12億円 ユーロ 11億円

● 人員

	2008.9末	2008.6末	2008.3末	2007.12末	2007.9末
連結	78,228	78,765	78,321	78,008	77,555

● 株主構成



わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
 最高品質の商品やサービスを提供する事により、
 社会の文化・科学・技術・産業の発展、
 健康増進、環境保持に貢献し、
 人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>